

かおり

vol.
53
November
2015



撮影者／岡田添生

理念

私たちは地域の皆様の
幸福(しあわせ)に貢献できる
社会福祉法人を目指します。

品質方針

顧客満足から顧客感動へ
「やさしさ」「真心」「思いやり」で満ち
溢れた**心のかおり**のするサービスを
目指します。

今回の内容

理事長 ごあいさつ	02
松美会のあゆみ	02
介護福祉情報	
高齢者の皆さんの住まいとは	04
～特別養護老人ホームと高齢者住宅って何が違う?～	
各拠点からのお知らせ	
さこ拠点(彦島迫町)	04
たのくび拠点(彦島田の首町)・しおはま拠点(彦島塩浜町)	05
ゆめタウン拠点(長府ゆめタウン)・しおかぜ拠点(彦島迫町)	06
松美会の人財	
私たちが働いています!	07
自宅でできる介護食のススメ	08

ごあいさつ



社会福祉法人 松美会
理事長 松永 清美

目頃はご無礼をしております。最近、いろいろと世の中が騒がしいかなと思っていたところですが、世界には本当に大変な国々があるものだと感じております。たとえば、難民の激増、その難民の受け入れにEUの国々では大変に困っているようです。難民の増加は21世紀最大の政治問題、社会問題に繋がるかもしれません。難民受け入れの少ない日本の対応も今後いかなる状況になるのかと案じております。

さて、特別養護老人ホームアイユウの苑は20周年を迎えることができました。これもひとえにご利用者様、ご家族様、地域の皆様、連携協働してくださるさまざまな事業者様の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。また、それぞれの事業所における職員のみなさんの頑張りを誇りに思います。

その当時、ゴールドプランの推進により、下関市においても特別養護老人ホームを核として、ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプサービスの在宅介護の三本柱に加え、地域の介護相談窓口となる在宅介護支援センターの複合施設が計画的に整備されてきていました。当時下関市の高齢者の約2割を擁する彦島でありましたが、借地文化が定着し、まとまった広さの土地を確保することができないことを理由に、彦島における特別養護老人ホームの整備は極めて困難な状況であったようです。ある日、ある方から「なんとか彦島に特別養護老人ホームを創ってもらえないか」とお願いされました。老人保健施設アイユウを建てたばかりでもありましたが、「誰もできないのならなんとか私が……」と社会福祉法人を設立し、土地を探しました。その場所は木々が生い茂る小高い山であり、造成にどのくらいの時間とお金がかかるのだろうか不安もありましたが、平成7年6月、関門海峡から北九州、さらには響灘・日本海を眼下に望む小高い丘の上に特別養護老人ホームアイユウの苑(50床)が誕生しました。土地取得から造成、建物竣工まで随分と苦労したことを覚えています。

5つの事業、職員35人でスタートした松美会アイユウの苑も現在では新たな保育事業に加え、介護予防事業や下関市からの委託事業を含めると40事業、職員254人の大所帯に成長させていただきました。ところで、平均寿命は日本が世界一ともいわれます。では、日本の高齢者の方々が「幸せか」と問われれば答えるのに苦労します。社会保障関係費の削減や介護報酬の減額改定など介護福祉を取り巻く環境は厳しくなる一方ですが、政治・政策にも期待しつつ、法人理念「地域の皆様の幸福(しあわせ)に貢献できる社会福祉法人をめざす」の実現に向け、一人でも多くの方に「アイユウの苑があつてよかった」と感じていただけるよう歩みを進めて参ります。来年にはしおかぜの里保育園の新園舎が完成します。「社会福祉法」が改正され、社会福祉法人そのものの在り方が厳しく問われてきます。介護人材の確保も難しくなっています。いまこそ職員一人ひとりの力を結集し、真に地域に必要とされる社会福祉法人になれるよう尽力してまいります。

今後ともご指導賜りますようお願いいたします。これから寒くなりますので 風邪など召されませぬよう、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



社会福祉法人 松美会の

あゆみ



20周年を迎えた 社会福祉法人 松美会の

これから

理念

私たちは、地域の皆様の幸福(しあわせ)に
貢献できる社会福祉法人を目指します

私たちには、20年培ってきた専門的知識や技術、それらを駆使できる人材があります。
それらを活用し、これから求められるさまざまな地域福祉課題に対応し、
福祉を必要とするすべての人々を対象に、松美会ならではの地域包括ケアを創りあげていきます。
ご利用者様、ご家族様、地域の皆様から“松美会”があってよかったと実感していただけるよう、

経営基盤の安定

利用者サービス満足度・
職員仕事満足度の向上

人材の確保・育成・定着

の3つを柱とする「社会福祉法人松美会 中・長期計画2025」を策定します。

経営品質を高めていくために、継続的な経営革新に取り組み、
「顧客本位」「職員重視」「独自能力」「社会との調和」を同時に満たす「卓越した経営」の実現を目指していきます。



各拠点からのお知らせ

さこ
拠点
(彦島迫町)



お客様の声に耳を傾けて

特別養護老人ホームでは、今年度お客様の声を収集することに力を入れています。お客様の声を収集するといっても従来の“ご意見箱を設置する”や“アンケートを行う”などの直接声を聴くものではありません。それは、お客様の“心の声”を聴くというものです。

今までもいろいろな方法でお客様の声を収集してきましたが、なかなか本音を聞き出せていないのが現状だと思っています。お褒めの言葉をいただくたびに職員一同嬉しくもなりますが、その一方で不安にもなります。施設という場所は本音を言いづらい場所なのではないか?そう思うときがあるからです。

そこで、お客様が言われる言葉の向こう側には何があるのか?を真剣に考え、そこに対して私たちはアクションを起こしていくことにしました。ただし、言葉の向こう側にある何かを捉えることは“相手の立場にたって考え想像すること”であり容易ではありません。日々試行錯誤ではありますが、少しずつ職員からその意見が集まると「そういうことなのかもね!」「確かにそうともとれるね!」との声もあがってきています。4月から始めた取り組みの結果56件の心の声を汲み上げることができました。お客様さえも気づいていない“本当は言いたかったこと”までも汲み取りサービスの質の改善が図れるようになると良いなと職員一同思っています。

特別養護老人ホーム アイユウの苑
主任生活相談員 高下康司



介護福祉情報

高齢者の皆さんの住まいとは

～特別養護老人ホームと高齢者住宅って何が違う?～

最近では、住宅型の有料老人ホームやサービス付き高齢者向け(以下、高齢者住宅)など“高齢者の方の住まい”が増えてきています。特別養護老人ホーム(以下、特養)もある意味住まいに分類されますが、特養には、なかなか入所できないから高齢者住宅に入居したとの話を聞くことがあります。高齢者住宅は、たしかに特養と同じ“住まい”ではありますが、そのサービス内容や料金は全く異なります。そのサービスの違いは何でしょうか?

特別養護老人ホーム

- ・入所できるのは原則、要介護3以上の介護の必要な方。
- ・介護サービスが契約に含まれている。
- ・低所得者向けの利用料の負担軽減がある。
- ・入所の判定基準があり、より重度の方から入所していただく。
- ・終の棲家として看取りケアができる体制にある。

サービス付き高齢者向け住宅

- ・基準は施設によって違う。要介護状態の方限定の場合もあるので要確認。
- ・別に介護サービス等を契約しなければならない。
- ・簡単な見守りサービス程度なら料金に含まれているが、その内容については要確認。
- ・看取りケアまでできる体制が本当にあるのかどうかも要確認。

※サービス付き高齢者向け住宅はサービス内容や料金にバラつきがあります。

どちらが良いのか?結論からすると「利用される方の要介護状態や経済状況、在宅での介護状況による」と思います。「お元気なうちは高齢者住宅に入り、介護がより必要になってきたところで特養に入居する。」「利用料が高い高齢者住宅は避けて、比較的利用料が安い特養の入所を待つ。」「一人暮らしが不安なので早いうちから高齢者住宅に入居する。」など。お一人おひとりの状況に応じて適した住まいがありますので、住まいの選択に迷われましたらご遠慮なくご相談下さい。

特別養護老人ホーム アイユウの苑
主任生活相談員 高下康司

10周年を迎えて

アイユウの苑デイサービスセンターしおはまでは、10周年を記念して弟子待平家踊り保存会の方々が来苑され、平家太鼓を披露していただきました。目の前で聞く太鼓の音はお腹に響きまた迫力もありました。音頭と三味線の音、太鼓のバチさばきに自然と体が動かされ、1人2人と平家踊りに参加されていました。

また、10周年記念行事第2弾として、天ぷらパーティも開催しました。フロアで実際に魚介や野菜のてんぷらを揚げていただき、揚げたてアツアツの天ぷらを召し上がられました。

デイサービスセンターしおはまでは様々な行事を毎月、各週で皆様に参加していただけるようにプログラムを組んで開催しています。『その日の行事の様子をご家族

の方にも早くお伝えしたい』との職員の思いから、今年度より行事があったその日のうちに写真入りの号外お便りをお渡ししています。

ご本人様とご家族様との会話のきっかけになっているとの声をご家族様からいただき、職員一同嬉しく思っています。

これからもご本人様にはもちろん、ご家族様にも安心してご利用していただけるデイサービスセンターしおはまなれますよう、質の高いサービスを提供してまいります。



各拠点からのお知らせ

たのくび

拠点
(彦島田の首町)

デイサービスセンターしおはま
管理者 岡田添生



各拠点からのお知らせ

しおはま

拠点
(彦島塩浜町)

地域密着型介護老人福祉施設しおはま
生活相談員 山本菜生子

“しおはま家族”で「おはぎ」を作る

一昔前は家族総出で、春は「ぼたもち」、秋は「おはぎ」を楽しまれていました。ここに住まれているご利用者様にとっては懐かしい家庭の一場面であったと思います。しかし、時代も変わり「ぼたもち」も「おはぎ」もご自宅で作るものではなく、お店で買うものとなりました。そんな季節を感じられる懐かしい機会をここで再現できれば…と思い、ご利用者様はもちろんのこと、地域の皆様、職員総出で「おはぎ」を作りました。

もち米を研いだり、丸めたり、あんこで包んだり、きな粉をまぶしたり。ご利用者様にも教わりながら沢山のおはぎが完成しました。

核家族化が進んだ現代。なかなか多くの人が集まり、おはぎを作るなどの行事はご自宅で難しくなりました。しおはま拠点では、そのような失われた機会を再現

することをきっかけに、ご利用者様に昔を思い出して懐かしんでいただいたり、達成感を味わっていただいたり、さびしい思いをすることなく楽しんでいただいたりする“場”を、しおはま拠点に関わる人達みんなが「家族」となって、提供できるようこれからも努めてまいります。



今までの“当たり前”の実現をめざして

アイユウの苑ゆめタウンでは、季節に応じてお花見や菖蒲鑑賞、そうめん流しや文化祭など毎月さまざまな行事を企画していますが、それ以外にもご利用者様と一緒に苑外に出かける機会を持っています。

普段なかなか外出する機会が少ない中、近くの商業施設等買い物に出かけることは、ご利用者様にとって、これまで地域で生活していた中での“当たり前の生活”ではないかと考えています。

近隣の商業施設であるゆめタウンに出かけた時は、好みの食料品や衣料品等を購入し、帰りには、アイスクリーム屋に寄って帰るのがいつもの流れとなっていま

す。商品を選ばれている時の顔は皆様真剣そのものです。出掛けられた後は、「今度はいつ行くかね」や「次行った時は、あれを買わんといけん」など2時間程度の時間もあっという間に過ぎるようです。

これからもアイユウの苑ゆめタウンは、地域密着型の施設として、地域に出掛けていく機会をたくさん持ち続け、地域との繋がりや自宅で生活していた頃のような自由さが維持できるように取り組んでいきたいと思えます。そして、自宅にいた頃の当たり前の生活が少しでも実現できればと考えています。

各拠点からのお知らせ

**ゆめ
タウン**
拠点
(長府ゆめタウン)

地域密着型介護老人福祉
施設ゆめタウン
生活相談員 河崎 亮



各拠点からのお知らせ

しおかぜ
拠点
(彦島迫町)

しおかぜの里保育園
園長 泉 喜代美



交流保育で育まれるもの

当苑では、保育園の祖父母の方、地域の方、西山小学校の子ども達、高齢者施設の皆様などとのふれあいを深める交流保育を行っています。カレーパーティー、お団子パーティー、焼き芋パーティー、おもちゃつき、海遊びなどその交流機会も多彩です。参加された皆様の笑顔が保育園中に溢れます。

先日行いましたアイユウの苑のご利用者様とのお団子パーティーでの出来事です。子どもがおばあちゃんの前に立ち手を出したり引っ込めたりして、なかなか手を握ることができずにいると、おばあちゃんが先ににっこりと笑い「可愛いね」と頭を優しく撫でてくれました。そうすると、子どももすぐに手を出し恥ずかしそうに握手をしていました。この時のことを、小さいながらも子どもは互いの間に通ったぬくもり、暖かさを忘れないことだろうと思

ます。笑顔の少ないおばあちゃんもいましたが、子ども達と接するうちに会話も弾み帰りには一人ひとりに握手をし、職員に「子どもをしっかりみなさいよ(育てなさいよ)」と激励の言葉も頂きました。おばあちゃんを笑顔にする子どもの持っている力は素晴らしく、みんなを幸せにしてくれることを改めて実感した一日でした。これからもこのような機会を作れるよう職員一同努めてまいります。





特別養護老人ホーム
介護職員 江本 好子
平成14年入職 介護福祉士

私が働く特養では、生活の場であると共に、人生の最期の時を過ごす場でもあります。長年働いているとお元気な時からご利用者様と関わらせていただくことも多く、その方々が看取り時期に入ると悲しい気持ちになります。そんな時、あるご家族様から言われた言葉を思い出します。看取り時期に入られたので、お部屋にお伺いすると「耳がピクピクと動き声を聞いているんですよ。」「私たち家族が声を掛けても反応が無いのに。」「あなた達を頼っているから声をしっかり覚えていて話を聞いているのじゃないか。」とご家族様から言われ、驚いたのと、温かい気持ちになりました。

ご利用者様にとって少しでも心の支えとなり頼られていると思うとこの仕事を続けて来て本当に良かったなと思います。これからも「頼りにされる」介護職員であり続けられるよう努力していきます。



デイサービスセンター
介護職員 野尻 裕子
平成23年入職 介護福祉士

私がこの仕事に携わっていく中で、日々努めていることがあります。それは、一人でも多くのご利用者様が心から笑顔で過ごされる様、全力を尽くすことです。ご利用者様に楽しんでいただくために、まず自分が楽しむということを心掛けています。

デイサービスに来られたご利用者様に、「あんたの顔を見たら元気になる。今日も頼むね。」と声を掛けていただき、「楽しかったよ。また来るね。」と満面の笑顔で帰って行かれる姿を見る度に大きなやりがいと喜びを感じます。

介護とは、人生の終期に向けて支援させていただける仕事です。だからこそ、私と過ごす時間にご利用者様にとって、『生きがい』の一つであると感じていただけるよう、これからも大切に過ごしていきたいと思っています。そして、「生きていて良かった。」「まだまだ長生きしたい。」と前向きな気持ちで過ごしていただけたら最高です。



栄養管理・食事サービス部
管理栄養士 村田 千佳
平成25年入職 管理栄養士

「沢山の笑顔が見られること」私がこの仕事をしていて良かったと思う瞬間です。

様々な食事に対する感想は、皆様が食事を大切にしてくれた証。美味しいと話す笑顔を見浮かべながら、生活の中の楽しい食事!を目指して頑張ろうと、いつも励まされています。

ただ、ご利用者様の中には、食事でむせこむ方、普通量では食べられないという方もいらっしゃいます。介護職員・看護職員……他職種と関わり合いながら食形態を変えたり、食事量を変えてみたり……

一人ひとりの栄養状態や身体状況を考慮しながら栄養ケアマネジメントを行なっています。

「食形態を変えて、食べやすくなった!」「最近、体調がいいみたい。」ご利用者様や、他職種からの評価に栄養士としてサポートが出来たと嬉しくなります。これからも1人でも多くのご利用者様・ご家族様の安心や笑顔に繋がることを目標に、栄養士として、そして生活を支える一人として頑張りたいと思います



グループホーム
介護職員 高野 雄紀
平成15年入職 介護福祉士

グループホームで勤務して8年が過ぎました。

認知症ケアにおいて、情報を共有することの大切さを日々痛感し、念頭に置きながら勤務しています。

一方で、『情報が共有するには具体的にどのようにしたら良いのか』について、明確な答えが見つからずに悶々とした時間を過ごしていました。

このことについて、数カ月前に複数の同僚から「高野さんの発信する情報はとてもわかりやすい。」と声を掛けていただいたことがありました。

グループホームでは些細なことから情報をパソコンに入力し、職員間で共有するようにしています。

特にこの数カ月、読み手に伝わりやすい文章を心掛け、何度も見直し、入力し直すことを実践していました。同僚から声を掛けていただき、率直にうれしかったことと、努力が報われた思い、相手を意識した仕事の片鱗が見えたような気がします。

これからも、自分本位でなく、『相手を意識した仕事』を形にしていきます。

松|美|会|の|人|財
私たちが
働いています!

今回のテーマは…
この仕事をしていて
良かったなと思う瞬間!